

「ジャーナリズムでは中立性が大事」と言われるが、その解釈は間違っていると思う。中立とは、物ごとの真ん中あたりを指す、位置的な概念に過ぎないからだ。

2月10日に新潟日報メディアシップで開催したイベント「ジャーナリストカフェ in 新潟」では、ジャーナリストの役割をめぐって議論が白熱した。ご紹介したのは、私自身の青い発言の一部である。

少し説明を加えよう。例えて言えばこういうことだ。ある国と戦争を構えようかという時に、「先制攻撃でショックを与え、有利な交渉を持ち込む」という意見と、「徹底的に相手を壊滅する」という意見が対立したとする。



ジャーナリスト 大越健介

キヤスターEYE

そこで、「先制攻撃で相手言葉に置き換えられるか手が交渉に応じないようなかもしれない。あるいは正義から、結果的に敵の壊滅もありうるべし」と、足して2で割った中立的な意見を吐いたとする。その場は収まる

ジャーナリストカフェ

地方にこそ現場はある

ゆかりのジャーナリストたちがパネリストとなり、参加者たちとの双方向の対話が繰り広げられた。前列に陣取った学生たちから盛んに質問が飛び、そのうちの一人は、価値観の変化に切り込んだ。「中道や正義のあり方は、

かもしれないが、「そもそも戦争はすべきでない」という、当たり前視点の置き去りにされる。それはまさに、ある国と戦争を構えようかという時に、「先制攻撃でショックを与え、有利な交渉を持ち込む」という意見と、「徹底的に相手を壊滅する」という意見が対立したとする。

時代とともに変わるのである。新新潟日報社と私が共催する形で立ち上げたものだ。ジャーナリストを志望する若い人たちが、あるいはこの仕事に関心のある人たちに参加を呼びかけたところ、120の定員は満席となった。進行役の私を含め、新潟り敏感になった。人権や多